

**JTSU 議員懇談会・衆議院議員 福島のぶゆき議員**

**国会（国土交通委員会）にて JR 東日本の経営体質を斬る**

**サービスの低下について**

- 常磐線特急が全席指定になり、お客さまが席種を選ぶものを一方的に「全員が座れるサービスだから」と言って実質値上げをするサービスに疑問を感じる。
- 日光線が減らされ、ギョウギョウ詰めで乗り切れなくて遅れるし、JR 東日本は呑気で「全く乗れない状況ではない」と言っている。
- 経費削減のためにアナログ時計を撤去したり、新治駅では駅舎改築により駅にトイレが無くなっている。いったい誰のための会社なのかと思う。

**齋藤国交相答弁**

- 鉄道事業者がサービスレベルをできるだけ維持向上させていくことは公共交通機関としての役割を果たしていくべきこと。利用者の不便を損なうことのないように、丁寧かつ十分な説明などの対応が重要。丁寧な対応をとるよう、鉄道事業者をしっかり指導していく。



**会社の体質問題について**

- 労働組合が8割も減っている。現場の様々な安全上の気づきなど経営側とやり取りする中で、安全文化ができてくるのに、これだけ組合がないということは安全上問題がある。
- 会社が組織的に組合潰しを行っている判決が出ている。国民の安全を預かる公益事業が会社ぐるみで“組合潰し”を行っていて、組合のない会社にしようとしているのは問題である。
- 会社の体質や雰囲気事故を起こす可能性がある。ジョブローテーションで異なる職種へ異動する制度で2割の方が異議を申し立てている。
- 正当な理由なく団体交渉を拒むことはできないにもかかわらず、団体交渉を行わない。そもそも組合側の声も聞かない。幹部社員は「安全のために何か交渉をするのをやめてくれ」と言っている。これは会社の体質として異常。国民の安全に関わる重要な問題である。

**齋藤国交相答弁**

- JR 東日本が適切に事業を運営するうえで必要となる労使関係をいかに構築していくかということは、経営上の問題である。
- 鉄道の安全を確保することは大事であり、仮に安全・安定輸送に関わる問題が生じてくるのが有れば適切に対処していく。



**福島 of ぶゆき議員  
 公式 Youtube より  
 ご覧いただけます！  
 HP ご覧の方は  
 QR コードをクリック**